

病院名：奈良県立医科大学附属病院

医療圏：中和医療圏

## 地域医療構想の達成に向けた将来の方向性について (地域医療構想調整会議資料)

### ① 地域医療構想を踏まえ、自院が今後地域において担う役割、機能について

#### ★記入の観点

##### 新公立病院改革プラン策定対象病院

貴院の改革プランに記載されている「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」のうち「地域医療構想を踏まえた当該病院の果たすべき役割」「地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割」の項目等を踏まえて記入してください。

##### 公的医療機関等2025プラン策定対象病院

貴院の2025プランに記載されている「自施設の現状」「自施設の課題」「地域において今後担うべき役割」「今後持つべき病床機能」の項目等を踏まえて記入してください。

#### ■自施設の現状

##### ○診療実績

- ・届出入院基本料 特定機能病院入院基本料(7対1入院基本料)
- ・患者数(H28年度実績) 外来:547,678人、入院:291,223人
- ・平均在院日数(H28年度実績) 12.83日(除精神:11.58日)
- ・病床稼働率(H28年度実績) 88.8%

##### ○職員数:(平成29年5月1日現在)

- ・医師:260名(医員・前期研修医を除く)
- ・看護職員:1037名
- ・専門職:302名
- ・事務職員:65名

##### ○自施設の特徴

- ・高度急性期医療が中心

##### ○自施設の担う政策医療

県内の5疾病5事業に関して、例えば以下のとおり中心的な役割を果たしている。

- ・がん 都道府県がん診療連携拠点病院
- ・脳卒中 脳卒中センターの設立(平成29年10月)
- ・急性心筋梗塞 365日24時間緊急カテーテル受入
- ・救急医療 高度救命救急センター(3次救急)、ドクターヘリの運航
- ・災害時の医療 基幹災害拠点病院
- ・周産期の医療 県内唯一の総合周産期母子医療センター 等

#### ■自施設の課題

- ・高度急性期・急性期医療に特化し、在院日数の短縮とさらなる逆紹介の推進が必要
- ・医療需要の変化(高齢化に伴う疾病の変化)への対応
- ・県内医療機関との役割分担とネットワーク構築

(紹介、逆紹介の推進によるスムーズな患者移動)

- ・経営改善(設備投資等のコストが経営を圧迫。効率的な運営体制の確立が必要)
- ・医療従事者の働き方改革
- ・県内唯一の医育機関としての医療人育成

■地域において今後担うべき役割

○5疾病、5事業を含む、県内のあらゆる医療の高度急性期・急性期を担う

○地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み

- ・総合診療科に在宅医療部門を立ち上げて次世代指導者養成システムを構築
- ・在宅看護に関する看護師特定行為研修の実施により特定看護師を養成
- ・休日・夜間の在宅医療を地域全体で支える仕組みづくりのコーディネート
- ・地域中核病院との連携協定締結による積極的な患者転院の実施

○その他

- ・新専門医制度に対応した人材の育成
- ・南奈良総合医療センターをはじめとした地域医療機関との機能分担、連携、人的支援の推進

■今後持つべき病床機能

- ・高度急性期病床及び急性期病床

② 貴院が希望される、地域の病院間での役割分担について

(地域において貴院が担わない又は縮小する役割・機能ができるかぎり明らかになるようご説明ください)

回復期・慢性期の機能は担わない。

③ ②を進めるための、地域における連携推進などの取り組み方針について

地域の医療機関との紹介・逆紹介の推進

- ・超高齢化の進展に伴う人口構造・疾病構造・医療需要の変化等、本地域における社会ニーズの急激な変化に対応し、健全な経営基盤のもと、患者さんに良質な医療サービスを提供するためには、地域完結型の医療体制を実現する必要があります。
- ・そのためには、地域の医療機関の一層の機能分化と緊密連携が必須と考えます。
- ・当院は、今後も5疾病5事業をはじめとする県内のあらゆる医療について、高度先進医療の提供など、県民の最終ディフェンスラインとしての役割を果たしていきます。
- ・そして、急性期を脱した患者さんの医療を地域の医療機関の皆様にご担っていただきたいと考えており、これまで以上に紹介逆紹介や診療科毎のネットワーク構築を推進し、WIN-WIN の関係を実現していきたいと考えています。
- ・具体的には、
  - 1.紹介患者が当院を初診受診した旨の紹介元への報告の徹底、紹介元以外へ逆紹介する際にも紹介元へ報告を行うなど、丁寧な情報提供に取り組んでいます。

現在、当院の紹介率は90%を超えていますが、紹介状を持った患者さんが予約なしで来院されるケースが30%以上あり、その場合診察まで相当な時間待ついただくなど、ご不便をおかけすることになりますので、事前にFAXやオンライン予約システムで予約を取っていただきますようお願いいたします。

2.逆紹介をスムーズに行うため、医療機関の皆さんと診療科別にネットワークを構築していきたいと思っています。

実際に患者さんを担当する医師同士が意思疎通を図り課題等を共有し、信頼関係のもとで患者さんを受け渡しすることが重要と考えており、意見交換の場を持っていきたいと思っています。

一方で、患者さんの受け渡しをするネットワークをスムーズに回すためには病院だけでは解決が困難な課題もあります。

例えば、患者さんの状態や家庭環境等により、なかなか転院先が決まらず、次の患者さんの受け入れに支障が出るケースがあります。

このような課題に対しては、県とも十分に連携し、受け入れが困難な患者さんの受け渡しを支援する制度も地域全体で検討していく必要があると考えています。

## 地域医療構想の達成に向けた将来の方向性について

## (地域医療構想調整会議資料)

## ① 地域医療構想を踏まえ、自院が今後地域において担う役割、機能について

当院は、中和医療圏における 320 床の中核病院であり、急性期病院として、長年機能してまいりました。しかし、医療の急速な進歩および専門分化により、現在は、一部診療不可能な高度急性期疾患は、主に奈良医科大学などの高次の病院に依頼しています。従って、病床機能としては、320 床の大部分が一般急性期病床に当たり、一部回復期病床になるものと考えます。現在は、51 床の地域包括ケア病棟が、当院の回復期病床の役割を担っています。当院の地域包括ケア病棟は、主に院内発生 of 急性期の受け皿として機能しておりますが、来年度以降、他院からの直接入院にも積極的に取り組む方針で、現在手順を整備中です。慢性期病床はなく、一般病棟の在宅復帰率は 97%超、地域包括ケア病棟の在宅復帰率は 90%超で、一部の退院患者を後方支援病院への転院等で対応しております。

今後、葛城地域内唯一の公立病院として市民及び地域の皆さんの必要な医療を提供していくという役割を担うため、「がん患者に対する集学的治療の提供」「365 日 24 時間救急医療の提供」「高齢者医療の提供」「在宅医療の提供」等改革プランに掲げた当院の果たすべき役割について更なる充実を図って行きたいと考えています。

## ② 地域の病院間での役割分担について

当院は、先述の如く、主に中和医療圏の西半分を占める葛城地区の中核病院です。本来は同地区で唯一の公立の総合病院として、すべての疾患の急性期の診療を担うべきところですが、慢性的な医師不足のため、常勤医師の不在の診療科を複数抱えております。当院の医師不足のために、葛城地区の救急医療体制の整備が非常に遅れてしまったと言っても過言ではありません。

そのため、2018 年 4 月から葛城地区の全日制の二次救急輪番体制を確立すべく、近隣の 5 病院に呼びかけ、準備を急いでいます。葛城地区の全ての自治体の支援の下、内科外科 2 科当直に、一部整形外科のバックアップ病院を加え、高次の疾患を奈良医科大学に依頼し、救急隊とも連携する体制を築きつつあります。このように地域として、急性期の疾患に対応する体制を構築中です。

一方、輪番病院全体が協力して、在宅医療の支援や奈良医科大学の後方支援も行えるようにできないかと、後述の如く、検討中です。

## ③ ②を進めるための、地域における連携推進などの取り組み方針について

先述しました如く、葛城地区の二次救急輪番を確立するために、近隣の 5 病

院と連携し、各自治体や奈良医科大学、救急隊との連携を構築しつつあります。二次救急輪番全体で、80%超の救急応需率を目指しております。

二次救急輪番が無事に稼働しました場合は、続いて在宅との連携を考えております。輪番病院全体で在宅患者を登録し、登録患者が急変した場合は、輪番病院が担当、自治体とも協力しながら、在宅に戻すシステム作りを検討したいと考えております。高齢者の入院は、可能な限り、近隣の病院で収容するのが、今後の地域医療ケアシステムにとって有用であると考えます。